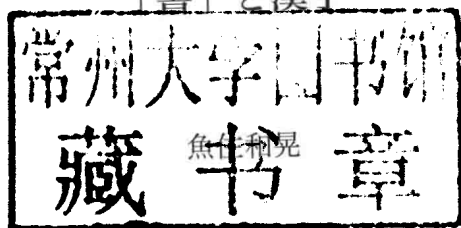


書と漢字

魚住和晃

nozumi kazuaki

「書」と漢字



講談社学術文庫

魚住和晃（うおずみ かずあき）

1946年生まれ。三重県出身。東京教育大学大学院修士課程修了。文学博士。神戸大学名誉教授。天津大学王学仲芸術研究所客員教授。西泠印社名誉社員。著書に『張廉卿の書法と碑学』『書を楽しもう』『書の十二則』『筆跡鑑定ハンドブック』、編著書に『マンガ書の歴史』（全3巻）などがある。



定価はカバーに表示してあります。

しよ かんじ
「書」と漢字
うおずみかずあき
魚住和晃

2010年11月10日 第1刷発行

発行者 鈴木 哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽 2-12-21 〒112-8001

電話 編集部 (03) 5395-3512

販売部 (03) 5395-5817

業務部 (03) 5395-3615

装 幀 蟹江征治

印 刷 信毎書籍印刷株式会社

製 本 株式会社国宝社

本文データ制作 講談社プリプレス管理部

© Kazuaki Uozumi 2010 Printed in Japan

図<日本複写権センター委託出版物>本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。落丁本・乱丁本は、購入書店名を明記のうえ、小社業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えします。なお、この本についてのお問い合わせは学術図書第一出版部学術文庫宛にお願いいたします。

ISBN978-4-06-292023-0

目次

「書」と漢字

序章	9
----	---

第一章 聖徳太子は三経義疏を書きえたか——法華義疏	16
---------------------------	----

1 法華義疏調査記録から	20
2 書法から見た法華義疏	25
3 法華義疏は聖徳太子の自筆か	35

第二章 日本最古の碑の謎——宇治橋断碑	48
---------------------	----

1 金石学	50
-------	----

2 日本の金石学	53
----------	----

3 藪田嘉一郎の宇治橋断碑論	56
----------------	----

4 宇治橋碑の造形的分析	68
--------------	----

5 宇治橋碑は道登供養の碑	83
---------------	----

第三章 欧陽詢書法の展開——金剛場陀羅尼経	86
-----------------------	----

1 金剛場陀羅尼経の造形性	89
---------------	----

2 欧陽詢か欧陽通か	98
------------	----

- 3 だれが金剛場陀羅尼經を書いたのか 104
- 4 長谷寺法華說相銅板銘 111

第四章 東大寺獻物帳は語る——正倉院文書…………… 114

- 1 東大寺獻物帳が伝える正倉院の書 118
- 2 聖武天皇と光明皇后の書 132
- 3 多様化した書法形態 145

第五章 空海の書法の意味——風信帖と金剛般若經開題…………… 155

- 1 風信帖と呼ぶこと 156
- 2 書状ということ 160
- 3 風信帖を読む 163
- 4 平安時代、空海の書はどう評価されたか 169
- 5 空海の書論 173
- 6 風信帖の書法 179
- 7 王羲之の書の真価とは何か 186
- 8 金剛般若經開題の書法 193

第六章 千変万化の筆脈——伊都内親王願文……………203

1 伊都内親王願文とは何か……………208

2 伊都内親王願文の書法……………219

第七章 天才児道風と和様——智証大師諡号勅書と玉泉帖……………237

1 三筆と三跡……………241

2 三筆と三跡の間にあるもの……………247

3 智証大師諡号勅書……………252

4 玉泉帖……………267

原本あとがき……………277

学術文庫版あとがき……………279

索引……………286

「書」と漢字

魚住和晃

講談社学術文庫

目次

「書」と漢字

序章	9
----	---

第一章 聖徳太子は三経義疏を書きえたか——法華義疏	16
---------------------------	----

1 法華義疏調査記録から	20
2 書法から見た法華義疏	25
3 法華義疏は聖徳太子の自筆か	35

第二章 日本最古の碑の謎——宇治橋断碑	48
---------------------	----

1 金石学	50
2 日本の金石学	53
3 藪田嘉一郎の宇治橋断碑論	56
4 宇治橋碑の造形的分析	68
5 宇治橋碑は道登供養の碑	83

第三章 欧陽詢書法の展開——金剛場陀羅尼経	86
-----------------------	----

1 金剛場陀羅尼経の造形性	89
2 欧陽詢か欧陽通か	98

- 3 だれが金剛場陀羅尼經を書いたのか 104
- 4 長谷寺法華說相銅板銘 111

第四章 東大寺献物帳は語る——正倉院文書…………… 114

- 1 東大寺献物帳が伝える正倉院の書 118
- 2 聖武天皇と光明皇后の書 132
- 3 多様化した書法形態 145

第五章 空海の書法の意味——風信帖と金剛般若經開題…………… 155

- 1 風信帖と呼ぶこと 156
- 2 書状ということ 160
- 3 風信帖を読む 163
- 4 平安時代、空海の書はどう評価されたか 169
- 5 空海の書論 173
- 6 風信帖の書法 179
- 7 王羲之の書の真価とは何か 186
- 8 金剛般若經開題の書法 193

第六章 千変万化の筆脈——伊都内親王願文……………203

1 伊都内親王願文とは何か……………208

2 伊都内親王願文の書法……………219

第七章 天才児道風と和様——智証大師諡号勅書と玉泉帖……………237

1 三筆と三跡……………241

2 三筆と三跡の間にあるもの……………247

3 智証大師諡号勅書……………252

4 玉泉帖……………267

原本あとがき……………277

学術文庫版あとがき……………279

索引……………286

「書」と漢字

序 章

いま、日本では漢字とは何かという関心がブームとなつて、静かな広がりを見せている。漢字が中国から日本に伝わり、それが本格的に用いられるようになって、すでに千五百年が経過している。漢字が外国から移入されたものであったことの違和感が消え去り、すっかり日本人の言語表記のための符号として同化しているその一方で、何げなく使っている漢字のもつ論理性と合理性を、生成の起点にたちかえり見つめ直すことに、新たな思考活動としての魅力が生じてきたものであろう。

何げなく使うといったが、この漢字を正確に記憶し、さらさらと書き続けうる能力が、たとえばヨーロッパ人の目には、驚異的なことに映るらしい。近年は日本人の書家がちよくちよくヨーロッパに出かけ、抽象画家気分で書作のデモンストレーションを行っているし、高校生や大学生の中では、パフォーマンス書活動が大はやりである。そのとき少しでも表現を抽象絵画に近づけようとして、中国の古い象形文字や、あるいは草書を目まぐるしく書いて、反応を引き出そうとする。

しかし、私のささやかな書家としての経験からすると、日本人や中国人ならともかくも、

そもそもが漢字を知らないヨーロッパ人には、それはいかほどの共鳴にも、また効果にも結びつかない。拍手はあるにはあるだろうが、それはおかたあらかじめ用意されたものであるし、デモンストレーターの真剣さに対する敬意と慰労、それに異文化の珍しさから生じた興奮によるものであろう。むしろヨーロッパ人は、複雑な点画で構成された漢字を完璧にそらんじ、それをたやすく整然とした楷書で書いていく能力の方に、納得をし驚嘆もするのである。

もう四十年以上も前の、学生時代のことである。都内の国電で乗り合せた見知らぬヨーロッパ人から、とあることから自分の名前を、日本の字で書いてくれと求められたことがあった。記憶が定かではないのだが、私が名前を尋ねられ、書いて示したからだったかもしれない。そこで彼の名をその発音のままに片仮名で書くと、彼が首を横に振りいたって不満げな表情をして、私の名前を指す。つまり、君が自分の名前を書いた漢字で書けというのである。とつぎのことで、これには困ってしまった。外国人だと思つて、軽く扱われたとでも思つたのだろうか。ともかくも、ヨーロッパ人にとって、漢字と片仮名とは、視覚的に受けるインパクトが、まったく違うのである。

これも学生時代の話であるが、抽象芸術の巨匠ホアン・ミロが、日本書道美術院の招きで来日したことがあつた。もともとミロは自己の作品表現に文字を取り入れ、また書に対して関心を寄せていることが知られていた。東京教育大学芸術学科書専攻仮名実技の講師であつ